



月報

岡崎の教育

平成13年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	①
岡崎市長	柴田 紘一氏	
この人に聞く	②
	大石 収宏氏	
羅針盤	②
音楽科指導員	酒井 洋一	
ふれあい	③
六名小	榊原 真紀	
甲山中	伊奈 良晃	
特集	④
	平成13年度教育の視点	
おしらせ	⑥
フォト・ヒストリー	...	⑧
この本を	⑧

教育随想

学校教育に期待

岡崎市長
柴田 紘一氏

教育に携わる関係各位におかれましては、さらなるお力添えをお願いします。

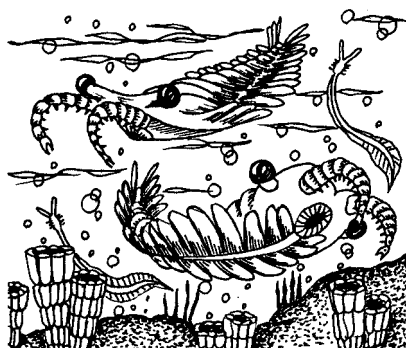


過日、二つの小学校で屋内運動場の完工式が行われました。真新しい施設は機能的に設計されており、使い勝手がよいようにできています。両校とも、整然とした式進行とともに子どもたちの躍動的なエネルギーが伝わって、とても心地よいひとときでした。これからの活躍が期待されるところであります。

さて、今日の日本は、少子・高齢化社会に直面しており、一人ひとりの子どもへの期待はより一層大きくなってきました。岡崎市では平成十三年度予算において、財政逼迫のなかではありますが、明日の岡崎、明日の日本を考え、子どもへの育成や学校教育への投資は欠かせない重要な事項と押さえて積極的に対処してきましたところがあります。

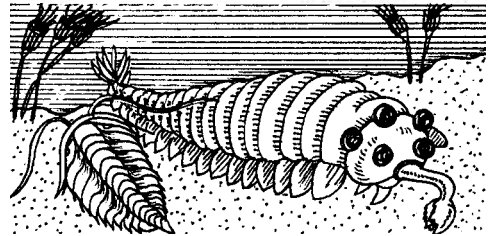
とりわけ、小・中学校における不登校対策に関しては、臨床心理士二人や専門の医師二人、学識経験者としての大学教授一人を新たに配置し相談活動・事例検討等、今日的な課題を解決する第一歩として踏み出しました。各学校においては、いじめ・不登校対策委員会を中心にして、それぞれの教職員のかたがたが、保護者や地域との協力体制のなかで昼夜にわたってご尽力をいただいていると聞いています。今後とも、関係機関とのネットワーク化をはかって、効果的な運用に期待するところがあります。

これからは、市民の皆さんがお互いに知恵を出しあって住み良い社会を築いていく時代であります。学校



ふるさとシリーズ

この人に聞く



岡崎の風土をスケッチ

大石 収宏 氏

厳しい寒さを忘れるような暖かい風が吹いた二月。大石収宏さんのご自宅を訪ねた。大石さんは平成四年に民間会社を定年退職された後、岡崎市内の神社やお寺・名木などをスケッチし、簡単な解説を添えた本を自費出版されている方である。その数は七冊にもものぼり、描いたスケッチは千枚以上だという。

最初に、こうしたスケッチを始められたきっかけをお伺いした。

「退職を機に仕事はきっぱりやめ、新しいことをやろうと思っていました。以前から興味を持っていた

市内の歴史を調べているうちに、観光文化百選があることを知り、スケッチをするようになりまし。するとだんだん夢中になっていったのです。」

大石さんの描いたスケッチ帳を拝見させていただいた。ページをめくると、温かさあふれる絵が目飛び込んできた。柔らかいタッチでありながら、見事なまでに写実的に描かれている。色彩をつけないのは対象を忠実に描くためだという。

「色をつけると影で細部をごまかすことができるのです。鉛筆ならごまかしがきかず、より正確に描くことができます。」

大石さんは本格的な絵の勉強はしなかったという。職にあったころ、仕事柄図面を描くことがあり、



それが今に生きていると語る。しかし、スケッチ帳に残された絵はまさにプロのものである。

市内をスケッチして歩くと、いろいろな場面で人との触れ合いができるという。

「以前福岡小で大松を描いていた時に、子供たちが集まってきまして山下清のようだと言われました。さらにクラスで作った焼いもまでいただきました。」

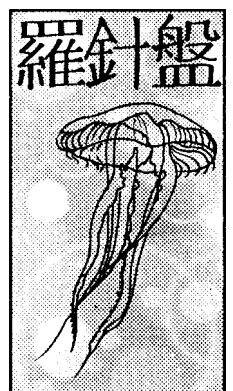
こうしたエピソードを語る大石さんは、実に幸せそうな笑顔を見せられる。充実した日々を送っておられるようだ。

最後に、これからの夢をお伺いした。

「市内にある中学校区すべての風土記のようなものを作りたいと思っています。全部で十八学区ありますので、大変なことです。」

大石さんの目が輝いた。穏やかな語り口調の中にも、強い意思が伝わってくる。きっと地道に自分の夢をかなえられるのだろう。そう感じた。

氏名 おおいし かずひろ
生年月日 昭和七年八月三日
住所 柱曙二丁目五十一番地



歌心が育つ

音楽科指導員

酒井 洋一

歌唱の指導では、ことば巧みに子供たちの意欲を引き出し、的確な指示でぐいぐい歌声を変えていくような指導技術は大切な要素である。しかし、こうしたうまさを追う一方で、子供に寄り添い一生懸命に取り組もうとする教師の熱意そのものも忘れないようにしたい。

歌うことへの自信をつけさせたいと願い、A先生は子供たちの前に立った。教材曲『ゆかいに歩けば』による五年生の「響きのある歌声を工夫しよう」の授業である。

「目を大きく開けて、口には縦に指三本。」

「肩の力を抜いて、胸を開いて。」導入では歌う姿勢を一つずつ確認していく。笑顔の中にも真剣な先生の話に、全員の子供が素早く姿勢をつくる。続く発声練習も、先生の弾く丁寧な伴奏を聴いて、皆まっすぐに歌いだす。乗せるうまさというよ

A子が車を持ち上げた

六名小学校 榎原 真紀

重量が約一トンの乗用車を前に、「車のタイヤに、長なわのロープが下敷きになっているんだけど、これを三人で取れないかなあ。」という私の投げかけに、子供たちは自信満々に答えた。

「そんなの三人でロープを引っ張れば取れるでしょう。」

「車を持ち上げればいいじゃん。」

しかし、三人で力を合わせてロープを引っ張れども少しもロープは動かない。車を持ち上げようにもタイヤは全く上がらず、顔を真っ赤にして車を押ししてみても、これもまた微動だにしない。

そんな様子を見つと見ていた普段物静かで控えめなA子が、駐車場の隅に置かれていた三メートル近くの



頑丈な角材とコンクリートブロックに目をつけ、

「先生あれを使ってもいいですか。」と言って、友達と運んできた。小柄なA子が中心となって、てこの原理を利用して楽々と車を持ち上げた。歓声と拍手が沸きあがり、はにかみながら笑うA子がいた。物静かなA子の存在の大きさをあらためて感じた。

五年生、理科の学習「てこの働き」の一コマである。



笑顔のB子に芽生えた自信

甲山中学校 伊奈 良晃

「先生、完食はどうなった。」

風邪で欠席をした生徒の家に電話をした私への第一声である。偏食の多い今の中学生。本当にできるのかという思いを持ちながらここまで続けてきた給食の連続完食。何度も窮地に陥った。でも、B子がいつもそこから救ってくれた。つまらない劣等感から自分にレッテルを貼り、素



直に自分を表現できないB子。でも本当は人に認められたくて、いつも陰で努力するB子の姿は、ついに引っ込み思案な我がクラスの女子を奮い立たせ、固い結束をもたらした。

完食五十日を越えた日、B子はとびきりの笑顔で全校生徒からの拍手に応えた。これがきっかけとなって全校で始められた完食コンクールのポスターは、今もB子の手によって、しっかりと管理されている。

現在の記録は六十二日。今も毎日更新されている。八人欠席の日も続いてきた記録だ。途切れることはあるまい。そしてこの記録こそ、我がクラスの子供にとつての誇りである。完食コンクールの表彰台に、B子が上る。どんなに素敵な顔を見せてくれるのか、今から楽しみである。

り、丁寧さ、誠実さ、真剣さが子供たちにそのまま伝わっているようだ。

展開に入り、グループ別の追究場面では目当てを書いた短冊で意欲化を図り、発表場面ではワークシヨツプ形式を取り入れて多くの発表と鑑賞の機会を設けた。また聴く側の主体性を支える学習カードの活用とともに、発表を録音しフィードバックして振り返る学習にも生かした。

こうした一つ一つの学習の手立てが有効に働き、子供たちが生き生きと学び続けたのであるが、それにも増して先生の称賛や励ましのことが光っていた。

「ねらったとおりスタックカートをつけて歌えたね。」

「三つの音がきれいに響いていたね。」

子供と共に相づちを打ちながら丁寧なことばをかけている。

事後の協議会では、同じ学年の先生から「四月から毎日先生に励まされて教室で歌う子供たちの声が、とても良くなってきている」「授業後も遅くまでピアノ伴奏の練習をしていた先生の熱意が子供に伝わっている」などの意見が出された。教師の熱意、誠実さが子供の歌心を育てていくことを皆で確認でき、有意義な全体会となった。



学校教育の視点

— 平成13年度 —

二〇〇一年の新世紀にあたる今年
は完全学校週五日制の前年でもあ
り、今後の教育の方向性を打ち出す
大切なときである。各学校におい
ては、少子・高齢化の今日、社会全体
で子供を育てるといふ視点から、家
庭や地域社会との連携を図りなが
ら、学校教育の果たす役割を明確に
していきたい。

教育課程審議会では、昨年十月に
「評価の在り方（中間まとめ）」につ
いて、児童生徒一人一人のよさや可
能性を積極的に評価し、豊かな自己
確立に役立つようにするとしてい
る。各学校においては、日常活動に
おいてどのように実現するか、特色
ある学校づくりのなかで、具体化す
ることが求められている。

一 学が喜びを知り、自ら学び考 える力を育てる。

子供はどの子も分かりたい、でき
るようにになりたいという欲求をもつ
ている。それに伴う学ぶ意欲、学ぶ
楽しさ・喜びを体得させ、生涯にわ
たって力強く生きぬく基礎的な力を
つけるために、次の二点に留意して
指導したい。

第一は、学習事象を始めた対
象について問題意識・課題意識とし
て高めることの大切さである。日常
生活のふとしたできごとからも気づ
く感覚を磨き、明確な問題意識とな
れば、もっと知りたい、調べたいと
いう意欲が高まる。子供の関心や意
欲を把握し、新鮮で驚きのある教材
の発掘、体験的な学習の導入など、
学ぶ子供の側に立った単元構想が望
まれる。

第二は、基礎的・基本的な内容の
厳選である。学習内容の削減の見ら
れるなかで、子供が生涯にわたって
成長と発達を続けていくための基礎
基本を明確に押さえて、大切なこと
は繰り返し学ぶようにして、その定
着を図りたい。

日ごろから子供に寄り添い、興味
や関心を押さえ、一人一人の個性を
伸ばす指導に心がけたい。

二 正義感・倫理観を備え、他を 思いやる豊かな心を育てる。

本来、人は他とのかかわり合いを
通して、人として成長していくもの
である。日々、変わりゆく生活環境
の変化のなかで、人として生きるた



学校教育に求められているものは、児童生徒が生涯にわたって力強く生きぬくための基盤となる力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、児童生徒のすぐれた個性を伸ばす教育を展開することが大切である。そのために、学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して子供が喜んで通うことのできる、魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」

岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を確立し、学校と家庭と地域との連携を図った教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 学ぶ喜びを知り、自ら学び考える力を育てる。
- 一 正義感・倫理観を備え、他を思いやる豊かな心を育てる。
- 一 自らを律し、たくましく生きる力を育てる。

めに必要な資質や能力を身に付けさせたい。

とりわけ、人とのかわりのなかで感動と感謝の心を持ち続けていきたい。熱意をもって人とかかわっていけば、相手の心を動かすものが自ずと生じる。この多くの感動体験が、豊かな心を形成して人間的な成長となる。人が人として生きるには、人としての正しい道を全うすること、それは相手に対する思いやりや感謝の気持ちとなって反映される。

また、教師の人となり、子供の人格形成に与える影響は大きい。教師も一人の人間であるが、自らの在り方・生き方を常に磨き上げるよう日ごろから自己研鑽に励みたい。教育者としての使命を自覚し、子供の成長を自らの喜びとして、ともに成長する教師でありたい。

三 自らを律し、たくましく生きる力を育てる。

急激な社会情勢の変化のなかにおいて、規範となる事柄が揺いできている今日、自らを律し、たくましく生きる力を育てることが重要になってきている。

その第一としては、基本的な生活習慣の定着が大切である。学校という集団の場において、子供たちが人とかかわりのなかで自己の在り方を身に付けて自己確立を図るようにしたい。また、折りに触れて善悪の判断力を身に付ける機会をとらえ、自己の規範意識を高めたい。

第二は、困難に対して粘り強く立ち向かっていくことのできる強靱な精神力である。たとえ失敗しても挫折することなく、失敗をバネにして最後まで挑戦するたくましさや身に付けたい。日常生活の中での体験が積み重なって生きる力となる。一人一人に即した支援を送り、希望をもって生きられるようにしたい。

以上、三つの指導の重点にそった教育活動を進めるにあたっては、教師自身のありようが大切になる。教育の専門家としての強い使命感と責任感を持ち、粘り強い実践力を発揮したい。各学校においては、校長先生を中心とした指導体制のもと、教職員一人一人が生きる力を身に付けて、全校一丸となって夢をもつことのできる学校づくりに邁進したい。

お知らせ

●少年自然の家だより

第一キャンプ場に

山小屋完成!

須淵の森は本格的な春に向けてエネルギーを蓄えています。今シーズンの一番ホットな話題は、第一キャンプ場に管理小屋が完成したことです。第一キャンプ場は、昭和五十二年の開所以来の施設ですが、水場が不便で、子供の集まるスペースがないなどの理由で、利用は大規模校に限られていました。今回の、この山小屋の完成で五十名程度の小規模な利用団体の活動がスムーズになります。また、総合的な学習の時間でクラス単位での特色ある活動をする際にはびつたりの施設かと思えます。

- ・少年自然の家
- ・ハートピア岡崎
- ・教育研究所
- ・新任教員紹介
- ・岡教組役員紹介



小屋は水場の東、第四テントの場所に建てられ、建坪は約三十六平方メートルで、毛布室、『こだま』（六畳）、『やまびこ』（八畳）の三室に分かれています。冷蔵庫も設置しました。小屋の前は、災害時の避難場所となる『こかげの広場』があり、テント一張増設も可能です。森に囲まれた、山の雰囲気たっぷりの第一キャンプ場を、多くの学校が活用して下さることを期

待します。

自然の家春の主催行事

▼少年自然の家見学会

4/14(土)

「子供の、孫の楽しみにしている山の学習は、どんなところでやっているのだろう。見てみたいな。」

という要望に応じて、今年度から一般の方を対象に自然の家の施設見学、遊歩道の散策、落ち葉スキーの体験もしてもらいます。

▼すぶちグリーンハイク

5/12(土)

新緑の須淵の森を、親子で楽しく散策しながら、植物について学習してもらおうと、平成二年から始めた主催行事で、今年で十二回目を迎えます。実物を前にして講師の先生の植物に関する話を聞いた

り、ササユリやシライトソウなどの希少植物を見たりして、山の春を堪能してもらっています。とりわけ、イタドリ、クサイチゴの実、ワラビ等の食べられる植物には関心が強いようです。昼食時には落ち葉スキーやアスレチック

ク、ワラビ狩りなどを楽しんでもらいます。また、今年の採集物でのしおり作りも予定しています。(詳細は四月十五日号市政だよりに掲載)

〈須淵の自然紹介〉
春は黄色い花のじゅうたん

春は黄色い花のじゅうたん

四月の声を聞くと木々が一斉に芽吹きます。コナラの白緑、それにヤマザクラの花が混ざり合って、一年中で一番素晴らしい季節です。

大駐車場からロτζジまでの道路わきにタンポポが一斉に咲きます。

この時期の雑草の花は黄色と紫が目立ちます。

創作棟の周辺には、タンポポに混じってヘビイチゴの花が咲き乱れ、黄色のじゅうたんを敷きつめたようになります。黄色の花ではその他に、オオヘビイチゴ、オニタビラコなどがあり、だいたいロゼット型の植物です。山道にも群生するウマノアシガタは山吹色のまぶしい黄色で、背丈もあり、群落を作って人目を引きます。この八重咲きの園

芸種がキンポウゲです。

自然の家は、昨年、中央ライオンズからしおり作りに使うパウチラミネーター・電子レンジ・押し花教室をセットで寄贈していただきました。ぜひ活用してください。



▼自然観察指導員に古田先生

勝田先生の後任に、前ハートピア所長の古田忠久先生が自然観察指導員として勤務されることになりました。全国ホタル研究会の会長で、この辺りの自然に大層詳しい方です。



●ハートピア岡崎だより

ハートピア岡崎って
どんなところ

「不登校の相談をしたいが、
どのようにしたらよいか」
「勉強を教えてもらえるか」
昨年度、このような問い合
わせがありました。

▼申込みについて

保護者が電話で申し込み、
日にちと時間を予約します。
怠け・非行による不登校につ
いては、相談にのるが、通所
は原則としてお断りします。

▼内容について

学校のような授業はやって
いないが、相談活動の一つと
して行っています。

ハートピア岡崎で行ってい
る相談活動の内容は、生活療
法、学習活動、スポーツ活動、
心理療法（カウンセリング）
の四つに分けられます。

このうち学習活動は教科の
ドリル的な学習や復習を個々
の子供の気持ちや能力に応じ
てマンツーマンで行っていま
す。主として朝、二十分〜五
十分の時間をあてています。

●教育研究所だより

教育研究所が移転します

六名会館二階にある岡崎市
教育研究所は、平成十三年五
月一日（火）より左記の場所
に移転します。

◇新住所

〒四四四一〇〇一四
岡崎市若宮町二一一一

（旧市民病院若宮庁舎三階）
教育に関する資料、図書の
閲覧、貸出を引き続き行いま

す。また、現職教育各都、
特別委員会など教育研究活動
の会場としてのご利用を承り
ます。なお本年度から新たに
臨床心理士の採用により「不
登校相談会」を開催してい
ます。詳しくは来月本紙で紹介
します。



・期待の新任教員 六十二名
小学校（三十五名）

- 梅園 康恵
- 根石 鈴木 一史
- 男川 林 俊樹
- 岡崎 鈴木 由佳
- 竜美丘 齋藤 淑子
- 連尺 仲田美知子
- 広幡 大谷 信一
- 井田 山内 剛治
- 福岡 赤穂 恵里
- 本宿 伊藤 真平
- 岩津 稲葉 朋子
- 大樹寺 久貝 雄二
- 大門 伊庭 教恵
- 矢作東 白山 雄吾
- 矢作南 谷口 志野
- 六ツ美中部 小久保紀代子
- 六ツ美南部 岸本 直子
- 城南 大山 好美
- 上地 深津 直美
- 上地 本多 友則
- 上地 小島 了
- 上地 金森 美佳
- 上地 野畑 紀子
- 上地 近藤 秀子
- 上地 村上 禎男
- 上地 森田 淳一
- 上地 太田 英嗣

・中学校（二十七名）

- 上地 竹内 康恵
- 小豆坂 石田紗和子
- 六ツ美西部 鈴木 一史
- 甲山 林 俊樹
- 美川 西村 建
- 南 鈴木 由佳
- 南 齋藤 淑子
- 南 小島 英雄
- 城北 仲田美知子
- 城北 大谷 信一
- 福岡 山内 剛治
- 東海 赤穂 恵里
- 常磐 伊藤 真平
- 矢作 稲葉 朋子
- 矢作 久貝 雄二
- 六ツ美 伊庭 教恵
- 六ツ美 白山 雄吾
- 北 谷口 志野
- 北 小久保紀代子
- 北 岸本 直子
- 北 大山 好美
- 北 深津 直美
- 北 本多 友則
- 北 小島 了
- 北 金森 美佳
- 北 野畑 紀子
- 北 近藤 秀子
- 北 村上 禎男
- 北 森田 淳一
- 北 太田 英嗣

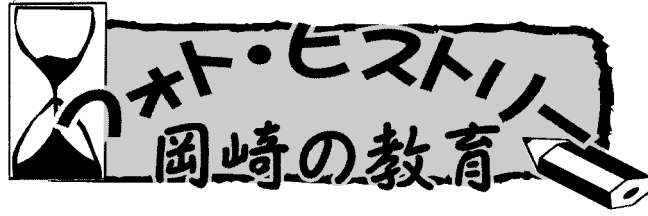
平成十三年度
岡教組執行委員

- 委員長 近藤 博之
- 副委員長 中村 公治
- 書記長 荻野 卓寛
- 書記次長 小田 昌男
- 組織部長 鈴木 誠
- 情宣部長 福田 貴子
- 教文部長 中西 勉
- 福対部長 山内 貴弘
- 調査部長 清水 良隆
- 女性部長 鈴木 尚子
- 青年部長 浅井 真人
- 会計委員 児玉 洋行



▶新任教師の集い
（少年自然の家3/27〜3/28）

・題 字 岡崎市教育長 藤井孝弘
 ・タイトルバック 矢作西小 長谷川勝一
 ・カット 根石小 赤崎類子



石の門柱 (大正4年)



写真提供 矢作東小学校

写真は、大正四年、矢作東小学校の創立時の正門付近を写したものである。当時の校舎は木造瓦葺き平屋で、子供たちは着姿であった。また、学校の顔となる正門には、写真のような重厚な石製の門柱が使われていた。多くの学校でそれらは現存している。

長い歴史を経て、校舎も子供の様子もすっかり変わってしまったが、石の門柱は、今もなお、登下校する子供たちを温かく見守っている。

この本を

- * 子どもの危機をどう見るか 尾木 直樹 岩波新書 ￥660
- * 天の瞳 成長編Ⅱ 灰谷健次郎 角川書店 ￥1500
- * ビタミンF 重松 清 明治書院 ￥1500
- * プラナリア 砂田登志子 文藝春秋 ￥1333

* なぜ、人を殺してはいけないのですか ヒュー・ブラウン

幻冬舎 ￥1500
 「なぜ人を殺してはいけないか」。これは、ある大学教育学部の入学試験小論文のテーマ。先の全国教研集会でも同様のことが話題になった。

テロリストとして青春時代を過ごし、殺人以外の犯罪はことごとく重ねたという著者の指摘は迫力そのもの。服役中に観た『ベン・ハー』に神を感じ、新しく生まれ変わる。「日本ほど自分にあっている国はない」と「平和ボケの日本人」へ平和の持つ尊さをも説いている。

お年寄りの車椅子を優しく押す子供たち。浴室で入浴介助をする子供の表情は真剣そのもの。福祉体験学習を通して自らの生き方を見つめ考えてほしいと、教師の思いは熱い。

新年度、総合的な学習の時間の取り組みが新たに始まる。

春風にたなびく菜の花の黄色い絨緞。明るく柔らかな空気の中に時折聞こえるヒバリのさえずり。そんなのどかな風景は、今は昔となってしまう。しかし、足下に目をやれば、タンポポ、スミレなどまだまだ春がいっぱい。子供たちに見つけさせたい、春の息吹を。

シオ スア

阿吽の呼吸という言葉がある。子供たちとこのような信頼関係を築きたいと常に願っている。

四月が始まり、希望をもって登校してくる子供たち。この一年、子供の思いに耳を傾け、心を開いて接したい。一年の計は四月にあり。

スケッチ帳をひも解くと、歴史の彼方に心が吸い込まれていく。一本の鉛筆から丹念に描き出された神社や仏閣。写実的な絵の中にも、大石さんの温かい人間性が伝わってくる。自分で足を運びこの目で見てみたい。大石さんの絵は人の心を動かす魅力がある。